

テーマ「テスト中の文章の読み方」

■読み切れない…

国語のテストの終了後に一部で聞かれる声が「文章が長くて、問題を全部解けなかった…」という声です。国語のテストでは「あるある」ということでしょうか。そして現在、その感想は国語だけではなく、他の教科でも聞かれるようになってきました。問題の長文化です。

さて、そのような「読みきれない」を解決する手立てとしてしばしば提起されるのが、「速く読む」すなわち速読です。それでは、みなさん、よういドン！でこれから文章を読む速さを鍛えるトレーニングを進めていきますか？

■読みの強弱

人は長い話を同じように聞いていない

話が長い人の定番なのが校長先生。朝礼での校長先生の話は5分、10分に及ぶときがあります。あれを初めから終わりまで意識を傾け、集中力を切らさずに聴くことができますか？（私には無理です。）

しかし不思議なもので、そのような長い話の内容をまるでわかっていないのかということ決してそうではありません。実は無意識に「ここは大事」「ここはいいや」と取捨選別しているのです。

読むこともこのような強弱をつけることが可能なのです。

■まずは国語の問題全体をながめる

問題の構造を知る

長距離走でも、短距離走でもまずはコースを知る必要があります。ゴールを目指して走っていく途中に、何があるのか、そもそもゴールはどこにあるのかを知らないまま走ってはいはの計算も立てられません。

国語のテストも同様です。模擬試験であれば、問題用紙を開いた瞬間に大問の構成をながめ、どこから取りかかるかを考えましょう。定期試験や入試であれば、あらかじめ過去問などで構成を把握して、それから取り掛かるのです。まずはそこからスタートです。

■速読は必要か？

目を速く動かすだけでは…

これもよくみられることですが、国語に悩む児童・生徒たちは、速く読むということ、雑に読む、飛ばし飛ばし読むということとして処理しています。初めから終わりまで読み終わっても、内容は頭に入っていない。ですから、問いに進んでも、また読み直すということをするのです。

読む速度というのは、文章を読む経験値と、文章の読みの強弱の相乗効果で導き出されるのです。単に目を速く動かすだけでは、「速く正確に」読むことはできません。

■読解問題…設問から読む？

設問から読んで文章全体が分かるという幻想

国語が苦手な人へのアドバイスとして、「先に問いを読んでみな」というアドバイスが与えられます。理屈としては、問いは文章をふまえて作られているから、それを読めば文章の内容も分かるというのです。

さもあんなの話ですが、これまでの私の学習経験、指導経験で申し上げますと、これどうまくいったという人に出会ったことはありません。そもそも問いだけで文章を再構築できるのであれば、普通に国語の成績がいい人です。

■まとめ

問題の長文化は避けられない！
だから事前の対策が必須！

1. 知識問題を速攻で！
2. 設問から読まない！文章から読む！
3. 速読ではなく、読みの強弱がカギ！

国語を筆頭に、今後どの教科においても問題の長文化は避けられないでしょう。長文化となると、時間の制約という問題がついてきます。しかし、読みの強弱をつけるトレーニングがなされていれば、その対応も自ずから見えてくるでしょう。